

「ひろしまを考える旅」参加者のことば

一緒にグループの人が「一人死ぬだけでも悲しいのに、そんな大勢死んだらどのくらい悲しいんだろう」と言っていました。私はそんなことが考えられなかったので、もうちょっとしっかり戦争のことを考えようと思いました。（中2）

何キロも離れていても原爆の被害があったそうです。そんなことは考えたこともなかったし、話を聞いただけでは想像もつかないようなすごいことでした。歴史的にヒロシマのことを考え、加害責任についてもふれました。広島に原爆を投下したアメリカは『地上戦を防ぐためにやった』と言っています。だから原爆投下は正しかったとしています。でも本当はアメリカが作った原爆の威力を試したかったとも言われます。しかし全部が全部アメリカが悪いわけではなく、日本にも悪いところがあったから、戦争に発展していったのです。結局みんな自分に都合のいいところだけしか見ていないのでは、と思います。自分の悪いところも良いところも認めなければ次へは進めないと思います。（中3）

漢字の『広島』とカタカナの『ヒロシマ』の意味を初めて知りました。漢字は地名でカタカナは被爆したという意味だと知り、考えることがすごいなーと思いました。似島では原爆の跡が分かり、そしてそれを未来に伝えていくための大切な資料である建物や水路が政府によってどんどん壊されているということを知り、何で壊すのか？日本が悪い部分を直視できないことに悲しさを覚えました。そしてほっとらかしくされた被爆者の方々に申し訳なく思いました。（中3）

初めは堅苦しいところかな、友だちできるかなって心配していたけれど、楽しかったよ。いろんなところに住んでいる高校生のお友だちもできたし、大人の人ともしゃべれたし。フィールドワークや資料館などでは自分の今まで知らなかったことが見えてきて、視野が広がったと思います。一つの物事を一つの方向からだけ見るんじゃなくて、いろいろな角度、立場から見るとことは大切だなと思いました。（中2）

一番印象に残っていることは、被爆者の方たちが「どうか平和を作り上げてください」と何度も何度も仰っていたことです。『人を人として認めること』の大切さ、『いのちの大切さを知ること』を改めて感じました。どんなに小さないのちでもこれからは大切にしていきたいと思います。戦争によって日本が苦しめた外国の人々の苦しみも同じ分だけ理解しなければならないと思います。日本人の命も外国人の命も同じ重みを持っていると思うのです。（高2）

フィールドワークは似島に行きました。その日は本当に暑く、若い私たちでさえひどく疲れたにもかかわらず、被爆者の江種さんが熱心に、また丁寧な当時似島で起こった事を教えてくださいました。すべてが印象的でしたが、中でもトンネルの中で「あなた方は正しいことを見極める人になってください」と本当に熱意を込めておっしゃられたことが忘れられません。被爆者の方は私たちに本気で教えてくださっているのだから、私たちも多くのことを学びとらなくてはいけないと再確認しました。（高2）

旅を通して、こんなに多くの人たちと知り合えたことがうれしかったです。違う国からの、違った言語を持つ、大勢の人たちが世界に平和をもたらすという同じゴールに向かって希望を抱いていることに心惹かれました。（留学生 高2）

学校で平和について話し合うことは今まで何度もありました。しかし『平和』を頭で考えて何が変わる

のだろうと私は感じていました。実際私は何をしたらよいのか全く分からずにいました。そこで被爆者の方に質問したところ、「あなたが身近なところから平和を作っていきなさい」と教えていただきました。この言葉は私を平和に一步近づけてくれました。この旅の事を忘れず、大切にして自分自身でしっかり物事を考えられる人になりたいです。 (高 2)

ショックの連続でした。その中でも一番強い印象で私の中に残っているのは、病院で伺った被爆体験でした。私にお話をしてくださった人は、70歳くらいのおばあさんでした。広島の名の声は厳しく、「話だけで分かるもんじゃないわ」と何度も言われ、「話せませんよ、とても話せませんよ」と泣きながらおっしゃいました。自分の家族を失った悲しみ、「助けて」と言われても、どうしようもなくその場を離れなければならなかった苦しみ、思い出したくない、あれは地獄だったと...。そしておばあさんは最後にこう言いました。「私たちは原爆のことは思い出したくも考えたくもないんです。だけど私たち被爆者は原爆の恐ろしさ、悲惨さ、そして被爆者の苦しみを伝えていかななくてはならない義務があると思っています。だからつらくても話していくのです」...。そして「戦争をもう起こさないで！」と言われたときに、大声で「はい」と言えなかったことがなさげなく、恥ずかしく感じました。だけど闘わねばなりません。数は少なくても、核に対して反対を続けていかなければならないのだと強く強く私は感じています。 (高 1)

『仕方ない戦争』『して良い戦争』なら仕方がないと政治家は言うけれど、広島に来て、して良い戦争なんてひとつもないと改めて確信しました。原爆養護老人ホームで、ある生徒が「絶対に戦争してはいけない」と感想を言ったとき、座っていた全ての方々が深くうなずいていらっしゃいました。私にはその深いうなずきから被爆者の方々の壮絶な苦しみと、戦争は絶対にいけないということがよく感じられ、戦争が実際に起こったんだという強い実感を持ちました。 (高 2)

『平和とは大切でかけがえのないもの』『戦争はいけない』このような言葉はなんとなく意識的に覚えているところがあって、普段深く考えることも関心をもつこともなかったように思える。この旅は私の考え方まで変えた。このような標語を掲げることよりも、その内容について考えることこそが大切だということを感じさせてくれた。またもうひとつ忘れられない貴重な思い出ができた。それはこの旅の参加者との出会いだ。普段なら絶対に会うことのできない日本各地、世界各国の方たちと出会い、話して親睦を深められたことは本当に素晴らしい経験だと思っている。 (高 2)

韓国人被爆者の方々に直接お話を聞いて差別のひどさ、というものを痛感しました。人々だけでなく、日本政府の対応も悪すぎます。それなのに「日本が好きだ」と言ってくださったあの言葉はずっと忘れません。 (高 1)

被爆者を訪ね、実際に体験したことを聞き、心にしみました。今までは戦争はしてはいけない！と何となく思っていただけだったかもしれないけど、この旅をして、しっかり平和を守ろう！！と思えました。私たちの未来は私たちが作るのだから。私は被爆者の人たちみたいに語ることは出来ませんが、その人たちの思い、願いを聞いてきました。それを伝えようと思います。 (高 2)

学んだことを全部忘れないで、前向きに生きていきたいと思う。平和は確かに保つことが難しいが、一人ではなく、みんなの力や強力が非常に大事だと思う。自分の伝えたいこと、やりたいことをちゃんと伝える。その上で世界(人・自然)が平和になるように活動しようと思う。 (留学生・大学 2年)

「被爆しても、日本がアジア諸国を侵略したことを無視してはいけない」という被爆者の言葉に惹かれ

ました。戦争はいけないもので、政府主導で(引き起こして)も被害者は国民です。身近なやさやかなことから、毎日の笑顔から、人々との出会いから、平和をはじめましょう。 (留学生・大学院 2 年)

韓国・中国・日本の歴史はデリケートなテーマであるため、歴史について皆で話し合うことを心配していました。でも 2 日目のディスカッションでは、平和の実現に努めようという明確な結論に達し、嬉しく思いました。日本国憲法 9 条に関しても関心を持ち、このことも継続して話し合っていかなければならないと思いました。 (海外 YWCA メンバー・大学 3)